

ポーランド ウッチ大学

[2023 年2 月 月分]

現代政策学部 4 年 茂田敦

「ひとり旅」

こんにちは、ポーランド・ウッチ大学に交換留学中の茂田です。帰国日が迫り、嬉しいような寂しいような複雑な気分です。今回は私の長期休み(年末年始とテスト期間終了後)の過ごし方についてお話しします。

ポーランドの学生になると付与される学生証は、最強のカードであり、国内外においては美術館・博物館、場合によっては公共交通機関の割引が適用されます(例外の国あり)。私は留学中の長期休暇で、ドイツ・オランダ・ベルギー・フランス・チェコ・オーストリア・ハンガリーの美術館を中心に旅をしました。EU圏内に留学すると他国へ簡単に旅行できるというのが利点です。かなり体力的に厳しいスケジュールですが、週末の早朝や深夜に長距離バスで隣国へ出発し、一日過ごした後、平日講義に間に合うように帰ってくる事が可能です。

時間はかかりますが私も上記の国へ行く際は全て、長距離バスを利用しました。ただ、注意点(個人的な後悔)もあります。これはホテル代を節約するために夜行バスを連日利用したお粗末ひとり旅の話(プラハ→ウィーン→ブタペスト→クラクフ)です。夜行バスは名の通り、明け方に次の目的地に到達するために夜中に現在地を出発するバスです。昼間のバスと比べて比較的安価であり、寝たら目的地へ到着するので時間もお金も節約できます。



オーストリア・聖シュテファン教会



オーストリア・ラファエロ「牧場の聖母」



ベルギー・ブルージュ



ベルギー・ムール貝

ただ、夜中まで時間を潰さなくてはならないという使命があるわけです。観光地だから時間なんていくらあっても足りないと思っていた私でしたが、疲労や営業時間を度外視していたのです。また、欧州ではトイレは有料であり、有人管理が多いため、深夜までやっている場所は数が限られます。夜行バス停留場や待機室が有れば良い方で、首都ではない地域では標識のみの場合もあります。つまり数時間、野ざらしです。

早春の寒空の下、私は体温を維持するためにお菓子をつまみながら、深夜バスの時間まで動き続けました。タバコも吸わないのにライターを買って手を温め、物陰のベンチや駅の構内で寒さを凌ぐ日が続きました。自分の愚かさを恨みながら氷像になる自分の姿を想像して絶望しました。



ドイツ・ブランデンブルク門



ドイツ・フリードリヒ「海辺の修道士」



チェコ・プラハの街並み



チェコ・ビーフシチュー

ただ、4日間で90kmを歩いたことも、寒さで震えながらドナウ河の水面に映る夜景を眺めたことも、朝3時に携帯の充電を減らさぬようにマップを見ずに風見鶏のように歩いたことも、やっとの思いで入ったホステルのシャワーは冷水だけだったことも、深夜におっちゃんがストリートピアノで弾いていた無名の曲で感動したことも、誰も知らぬ土地で無力感を感じたことも、突然パイナップルピザを2切れ貰ったことも全て、間違いなく「日常」では経験できないことです。

留学の真髄は内省による内面的な成長です。これは新たな価値観に触れることによって、自分を自分たらしめるのは何かを考えると意味です。また、留学は新しい機会を学ぶ場を海外に広げて考えることであり、留学中の勉強だけが全てではありません。辛い経験をした際には角度を変えて、自分を成長させるものだと捉えるか自分のしたいことを柔軟に変化させてみるのが大切です。ピザのトッピングにパイナップルもアリだなと思える位がちょうどいいのかもしれません。ちなみに行った国の中でオススメはオランダ(アムステルダム)です。(終)



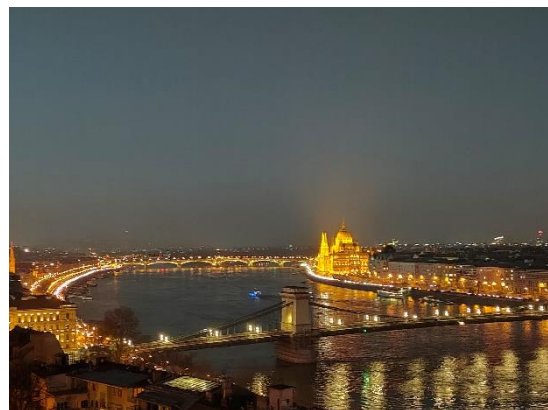
オランダ・アムステルダム市内



オランダ・花市場



ハンガリー・パイナップルピザ



ハンガリー・ドナウ川



フランス・ルーブル美術館



フランス・セーヌ川